



時枋 報幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第123号

平成27年12月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／宇南山 照元 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



第22回 ピカピカの栃木県 公共施設美化十万人運動の実施

平成二十七年十月十日(土)～十月二十四日(土)

『お母さん、小さいゴミが多いんだね』『いっぱい見つけたよ』『よく見つけたね』と母親。親子でゴミ拾いを行う事はなかなかないもの。ピカピカの栃木県は親子で環境美化について考えるよい機会だと思った。

第二十二回ピカピカの栃木県が十月十日より二十四日まで、栃木県下の幼稚園で行われ、国・公・私幼稚園など一二九園、園児二四、四八八人とその家族、教職員が参加した。これは幼稚園連合会と幼稚園PTA連合会とが協賛し「家族の在り方」「環境」「公共心」を家族ぐるみで考えるため毎年実施しているものである。

年に一度、保護者の方と園児が一緒にゴミ拾いをするというのは、主旨にある公共心、地域の環境美化について親子で考えるよい機会だと思つた。また、私たちが行った益子町北公園、七井中央一号公園にはごみが少なく、普段から地域の方も環境美化について取り組んでいることが確認できた。

今年で二十二回となるピカピカの栃木県。タバコの吸い殻など多くのゴミは大人が捨てたもの。ずっと以前、私たちが子供の頃から拾い続けた「ゴミ」は果たして少なくなっているのだろうか、と思う事もある。しかし、問題はそこではないのかもしれない。「ゴミが



(写真：清滝幼稚園)

少なくなつたかどうかより、綺麗にすること自体が清々しい。公共施設とともに私たちの心が美化されていくことを感じる「ピカピカの栃木県」である。

(七井幼稚園 佐藤広志)

参加園
129園
参加人数
24,488名



寺久保公園やお散歩コースの道路を年長児と保護者がゴミ拾いしました。

芳賀地区
期日 十一月十一日(水)
場所 寺久保公園 その付近の道路
参加人数 園児・保護者・教職員 三十二名



園外保育で利用している近隣の公園と、公園までの道路脇のゴミ拾いをしました。大人が見逃してしまうような小さなゴミまでも、宝物を見つけたかのように拾っていました。活動を終えてからの感想を聞いてみると、「地球が喜んでい!!」と、達成感とともに、嬉しさを表現する子もいました。

宇都宮地区
期日 十月二十二日(木)
場所 みどり公園と道路脇
参加人数 園児・教職員 百一名

各園の取り組み



いつも利用している観音山公園を、感謝の気持ちで清掃した。

★**佐野地区 洗心幼稚園 認定こども園**
期 日 十月二十六日(月)
場 所 観音山緑地公園
参加人数 園児・保護者・教職員 二百八十三名



幼稚園からすぐ近くのアズマ公園に出掛けました。軍手とゴミ袋を持ってゴミ拾いをしました。ぴかぴかになって良かったね。

★**足利地区 花園幼稚園**
期 日 十月二十八日(水)
場 所 あずま公園
参加人数 園児・教職員 三十四名



咲き終わったコスモスの片付けや草取り、掃き掃除など、保護者と共に楽しく最後まできれいにすることができました。

★**小山地区 のぶしま幼稚園**
期 日 十月九日(金)
場 所 幼稚園周辺道路と地域の花壇
参加人数 園児・保護者・教職員 三十三名



園外保育で使用する公園でのゴミ拾い活動を実施した。

★**栃木地区 栃木みどり幼稚園**
期 日 十月十五日(木)
場 所 栃木市つがの里
参加人数 園児・保護者・教職員 四十八名



大谷川グリーンパークにお散歩に行き、その時にゴミひろいをしました。

★**日光地区 聖ヨゼフ幼稚園**
期 日 十月六日(火)
場 所 大谷川グリーンパーク
参加人数 園児・教職員 三十名



鹿沼東高生と一緒に、国道沿いの歩道のゴミなどを拾った。煙草の吸い殻の多さが目立った。

★**鹿沼地区 認定こども園 仁神堂幼稚園**
期 日 十月十六日(金)
場 所 国道二九三号線沿いの歩道
参加人数 園児・高校生・教職員 百六十名



クラスごとに三方向に分かれ、子どもたちにはゴミ等を見つけてもらい、それを教職員が火ばさみで拾いました。例年、子どもたちは環境を大切にする意味を楽しく実感しています。

★**那須地区 那須みふじ幼稚園**
期 日 十一月四日(水)
場 所 幼稚園周辺から近隣の道路沿いなど
参加人数 園児・教職員 九十五名



ティッシュペーパーを配布し「ごみを捨てないで」と呼びかけた。

★**塩谷地区 かしわ幼稚園**
期 日 十月二十二日(木)
場 所 ●矢板市内の道路
●かしわ幼稚園周辺等
参加人数 園児・保護者・教職員 二百四十名

研修会だより

第二回 保育テクニカル講座

【期日】 平成二十七年九月三日(金)
【会場】 コンセーレ(大ホール)
【参加】 百二十七名
【テーマ】

「無理なく、楽しい鍵盤ハーモニカの導入と合奏指導法」

【講師】 音楽講師 並木まり子氏

【ヒモト】 「素敵！すごい！素晴らしい」の3Sは子どもの意欲を伸ばす魔法の言葉、と教えてくれた並木先生。先生に褒められ

か、子どもの立場になって過ごした約二時間でそのことがよくわかった。教え込まれるのではなく、自然に弾いてみたいと思えるその声かけや導入方法は、楽器演奏のみならず、様々な場面ですぐに実践できる「素晴らしい」保育だと感じた。



ふたの開け方から始まり、音の出し方、出さない合図、持ち方や手の形、約束など、初めて鍵盤ハーモニカを持つ子どもの気持ちを意識しながら、基礎のわかりやすい伝え方を確認。吹き口をへビに見立てるおもしろさや、絵カード・紙コップを使つてのリズム遊びを教わり、子どもと鍵盤ハーモニカに取り組む時が心待

ちになる「素敵」な指導だった。

最後は、簡単なリズムでも、それぞれの楽器やパートに分かれて合図に合わせるのと立派な合奏になることに驚いた「すごい」研修だった。

設置者・園長研修会

【期日】 九月十五日(火)
【会場】 二荒山会館(鶴の間)
【参加】 九十六名
【内容】 「新制度元年を迎え、多様な保護者との関係作りについて考える」

【講師】 淑徳大学短期大学部

准教授 佐藤純子氏

【ヒモト】 荒居経営研究委員長より、新制度に移

行していくと共に、更に各ご家庭の経済状況の違いなどから、多様な価値観を持った保護者との関わりが求められる事が予想される。それに

対して我々はどう付き合ひ、どう向き合つていくのか考える必要があるとご挨拶をいただいた後、研修に入った。



研修では、「新制度とは?」「目的は?」「保育料は?」からはじまり、その後、事例研究・紹介に移った。主な事例1…東京都台東区認定こ

ども園ことぶきこども園からのメッセージ

「財政面ではそれほどメリットを感じないが、全てのこども達に幼児教育の充実が図れる」

主な事例2…栃木県佐野市認定こども園あかみ幼稚園からのメッセージ
「新制度の理念を職員や親たちと共有する事が大切」

主な事例3…狛江市認定こども園パイオニアキッズ西野川園(仮名)からのメッセージ

「どの様な保育を行いたいのか、明確な理念を保育者に伝えつつ、その理念が達成出来るよう深く考える事」

主な事例4…東京都東村山市認定こども園東村山むさしの幼稚園からのメッセージ

「二〇〇園あったら、一〇〇通りの成功事例が出てくる。周辺の子育てを環境を見定め、多機能型子育て支援サービスを目指して行く事」

第五十五回 関東甲信越静地区造形教育研究大会 平成二十七年栃木県造形教育研究大会

【期日】 平成二十七年十一月十九〜二十日
【会場】 宇都宮市立南図書館・宇都宮大学教育学部附属幼稚園
【参加】 三十三名
【大会テーマ】

「つなげよう 自分らしく生きる未来へ」

「あふれる思い うみだす楽しさ つたえあう喜び」

十一年ぶりに開催された本

大会は県内の幼・小・中・高が互いの学びやスタンスを視野に入れ、発達段階に応じた造形教育の研究大会として実施された。大会初日は宇都宮市南図書館を会場とし大会テーマの基調講演と文科省による指導講評、続いて矢板出身の「鰯(いかるが)工舎」舎主である小川三夫氏による「不揃いの木を組む」の記念講演が行われ、全国各地の寺院の改修・再建・新築に携わった貴重な体験談を聞くことができた。大会二日目はそれぞれの校種に分かれ、幼稚園部門においては午前中に宇大附属幼稚園で三・四・五歳児ごとの「保育のねらい」を基に公開保育と研究協議の後、午後からは宇都宮共和国の桂木奈巳准教授を迎え、身近にある自然物(主に植物)の特性を活かした「草木染」と「自然物のクラフト」の制作活動が行われた。参加者からは身近にある素材の活用法に多くの気づきがあったとの声が寄せられている。約二年前から本大会の準備としてご尽力いただいた宇大附属幼稚園の教職員と数十回に及ぶ会議に参列いただいた大会役員の皆様にこの場をかりて感謝申し上げます。





第二回 保育セオリー講座

●期日 平成二十七年十月十五日(木)
●会場 コンセーレ(大ホール)
●参加 百三十九名
●内容 「遊びの充実を目指した保育の在り方」運動遊びを中心にして」

●講師 東京学芸大学 准教授 吉田伊津美氏

●メモ 今回のセオリーは、子どもは遊びが仕事という言葉があるように、「自分の思いの向くままに遊びを楽しむ中での自然な動きが、運動能力を高めていく可能性が高い」というお話から、自由遊びの重要性を知る講座となった。



子どもたちが、「テラスで靴を履く」という動作にも様々な姿勢で履く事ができることを例に挙げ、普段の生活の中にも「多様な動き」があるにもかかわらず、その動きを上手く使うことができていないと指摘された。だからこそ、子どもたちの日常の身体活動を見直し、子どもの興味や関心に合わせながら、活動や遊びの中で、自然に運動能力の向上につながる動きを取り入れていく必要がある。

今後とも保育者として、子どもたちと一緒にたくさん体を動かし、楽しい時間を共有しながら、子どもたちの

の運動能力を高めて行きたいと改めて再確認することができた。

第三十一回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修会

●期日 十月二十六日(月) 二十七日(火)

●会場 盛岡市・ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

●参加 約四百七十名

●メインテーマ

「明日に向けて幼児教育の振興を考える」

●一日目

●記念講演『新渡戸稲造の少年時代』

講師 一般財団法人 新渡戸基金

常務理事 藤井 茂氏

●行政報告

「私立幼稚園を取り巻く現状と課題」

講師 文科省初等中等教育局

幼児教育課長 淵上 孝氏

●二日目

●研究講座(参加者が一講座選択)

・教育

『幼児教育の質を問う』教育におけるリーダーの資質とは』

・振興

『これからの幼児教育の振興活動を考える』

・経営

『マイナンバー制度及び労務管理について理解を深め、学び、考える』



・認定こども園
『半年経過、もっと良くなれ新制度』

平成二十七年度 公開保育研究会

●期日 平成二十七年十月三十一日(土)
●会場 宇都宮大学教育学部附属幼稚園
●参加 百三十一名

●メモ 平成二十七年度公開保育研究会が県内外から百三十一名が参加し開催された。今年は「豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境」もので広がる私の世界」という主題を掲げ、公開保育と年中組担任の坂本修子先生による研究発表と2つの保育研究が行われた。公開保育では各学年ごとに指導計画や週案・日案に沿った「もの」を通じて適切な環境づくりが随所に感じることができた。保育研究①では「当日の保育における実際の子どもたちの姿をもとに、各学年で様々な視点から保育についての見解を深める」保育研究②では各学年ごとに「もの」を通して遊びや環境の構成についての考えを深めること中心に宇都宮大学の長谷川 万

由美教授、同大学の青柳宏教授、宇都宮共和大学の市川 舞講師を指導助言に迎え活発な研究協議がなされた。



第三回 保育テクニカル講座

●期日 平成二十七年十一月十一日(水)
●会場 コンセーレ(大ホール)
●参加 百三十六名
●内容 「幼児期の食育・アレルギー疾患の理解と対応」

●講師 講師 成田 美紀氏
國學院大學栃木短期大学

●メモ 「幼児期の食育」「アレルギー疾患の理解と対応」と二つのテーマを柱とし、普段の食卓から見える食の問題、子どもの心も体も元気に育つ「食」とは何か、家庭や園で出来る取り組みについて聞くことができた。私たちが生活していく中で、なくてはならない「食」をテーマにしたとても興味深い内容であった。



専門的な内容であったが、母親の視点を通じた具体例により分かりやすく、学齢ごとに食事のポイントも話していただいた。今回の講話を通し、「食」の役割の重要性を改めて感じ、遊びや生活の中など身近な所から結び付けていく大切さを学んだ。また、アレルギーの対応については、医療機関・家庭・園との連携を図り、安心安全な食事が楽しくできる環境作りをしていくことが第一と再認識できた。

第二十九回 全日私幼連 関東地区代表者協議会千葉大会

期日 平成二十七年十一月五～六日
会場 ホテル ザマンハッタン(千葉市)
テーマ 「豊かな子どもの未来のために」

「子どもも、親も、先生も育つ」
研修Ⅰ『東京ディズニーランド学びの研修会』

講師 (株)オリエンタルランドマーケティング部 シニアリーディングスタッフ 徳田 祐一郎氏

研修Ⅱ『子ども・子育て支援新制度について』

講師 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 幼児教育企画官 成松 英範氏

研修Ⅲ『私立幼稚園の現状と課題』
担当 各県私学行政担当官

研修Ⅳ『夢に向かって』
班係長 野中延寿氏

講師 日本大学保健体育審議会 陸上競技部監督/教授 小山 裕三氏
常任理事、事務局長が参加した。ディズニーランドでのキャスト育成研修法等、各県の子ども・子育て新制度に向けての現状と課題について、各県行政担当者を交えて研鑽した。



「〇・一・二歳児研修」

期日 平成二十七年十一月三十日(月)
会場 二荒山会館
参加 百十九名
テーマ 「現場の先生が〇・一・二歳児の保育をする中で困ったことや疑問に思ったことについて考えて見る」

講師 認定こども園 こどものもり 副園長 白鷗大学 講師 若盛 清美氏

「乳児の保育で大切にすること」とを幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説から読み解き、若森先生の園で行っている実例や、また事前のアンケートで答えた、保育教諭が実際に困っていることや疑問点を講話の中に織り交ぜ話をし、明日から保育に役立つ講習であった。

専門知識を身につけ、子どもたちの健康状態の把握、疾患や事故防止、生理的欲求の対応、発達に応じた運動と休息に努めること。そして、子どもたち一人一人が情緒の安定を保ち、自分の気持ちを安心して表すことができるよう、自分を肯定する気持ちが高まるよう信頼関係を築くことが大切なのである。特に、愛着関係(アタッチメント)は乳児期には重要で、保育教諭は家庭での愛着が不安定な子に対しては、日々の保育の中でその子の求めに常に敏感



に対応し、第二の安全基地として安心感を与え、信頼できる人間関係を体験させることが、その子にとって支えになるのである。

子どもたちの生活する物的環境、私たち保育教諭の存在や関わり方の人的環境も子どもたちのことを考え変化していくものである。それと同時に保護者の方と一緒に子どもたちを育てていく姿勢が大切なのだ。若盛先生は教えてくれた。

設置者・園長研修会

期日 平成二十七年十一月十八日
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)

参加 百五十四名

内容 緊急解説！学校法人新会計基準・マイナンバー制度

講師 税理士法人 報徳事務所 代表社員・理事長 赤岩 茂氏

今回は、今回の設置者・園長研修会は、内容の通り赤岩氏により学校法人新会計基準とマイナンバー制度についてお話をいただいた。新会計基準についての趣旨は「学校法人の作成する計算書類等の内容がより一般にわかりやすく、かつ的確に学校法人の財政及び経営の状況を把握できるものとなるよう、改善・充実を図る。社会から一層求められている説明責任を的確に果たすことができるようにする。学校法人の適切な経営判断に一層資するものとする。」(配布資料から抜粋)であり、適切な表示を心がけたい。また、マイナンバー制度については、現在導入がすすめられているマイナンバー

についての取扱いについて解説いただいた。

研修会後引き続き栃木県保健福祉部より行政説明が行われた。

(1)幼保連携型認定こども園申請書の書き方について

主査 斉藤 正芳氏
これまでの申請時において間違いやすいところを、丁寧に説明頂いた。(2)幼稚園における二歳児の受入れについて

係長 野中 延寿氏
幼稚園での二歳児の受入れについて、「入園」と「子育て支援」についてわかりやすく説明していただいた。判断に迷う場合はこども政策課まで連絡をしてほしいとの事。また、園舎面積・運動場面積・園地面積についても説明していただいた。

(3)栃木県私立幼稚園の耐震化について
副主幹 大根田 敦氏
栃木県は全国に比べても、耐震化が遅れているとの事、補助金等を活用して耐震化を進めてほしいとのお話があった。





平成28年度 予算要望書

団体名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長 石嶋 勇

要望事項等	継・新 の別	要望事項	
		現 行	要 望
1. 予算に関する要望			
【要望1-1】運営費補助金(学校法人立)の増額 私立幼稚園の経営の健全化、幼児教育の質的向上を支える運営費補助金について、国に準じて増額を確保するとともに、群馬県(18,538円)、茨城県(14,000円)なみの県単補助金の増額を要望します。 なお県単補助金については、幼児教育の質的向上のために、認定こども園等の1号・2号園児も対象とするよう要望します。	継続	園児1人当たり 183,300円 国庫補助 23,235円 地方交付税155,200円 県単補助 4,800円	園児1人当たり 190,491円 国庫補助 23,491円 (予定) 地方交付税157,000円 (予定) 県単補助 10,000円
	新規		認定こども園に拡大 (県単補助)
【要望1-2】教材費等補助金(102条)の増額 102条園(宗教法人立・個人立)の幼稚園は、大変厳しい財政状況の中、学校法人立園と同様の設置基準に基づいた幼児教育をしています。運営費補助金の1/2補助に向けて増額を要望します。	継続	園児1人当たり 39,100円	園児1人当たり 50,000円
【要望2】特別支援教育費補助金の増額 現行制度では、対象児が2人の場合は1,568,000円となりますが、1人の場合は392,000円と1/4になってしまいます。この補助額では教員を加配して対象児に必要な教育的援助を行うことは不可能です。国庫補助の対象とならない「対象児が1人の場合」「学法立以外の園の場合」であっても、県単補助による同額の補助を要望します。 また、1号園児と同じ教育的援助を受ける2号園児に対しても、特別支援教育費補助金の対象としていただくことを要望します。	継続	・学法で2人以上在籍 1人当たり784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり392,000円 (県単補助)	・学法で2人以上在籍 1人当たり784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり784,000円 (県単補助)
	新規		・2号園児 392,000円 (県単補助)
2. 政策に関する要望			
【要望3】子育て支援事業等への財政的援助の充実			
①第2子以降に対し、同時在園でなくとも補助対象となるよう、現行制度の拡充を強く要望します。	継続	小学校3年生以下の兄弟から数えて第2子以降	兄弟の学齢等の条件撤廃または年齢引き上げ
②仕事と子育ての両立支援のために、預かり保育に対する一層の支援を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	増額
③より多くの幼稚園が地域の子育ての拠点として充実できるよう、さらなる財政的援助を要望します。	継続	子育てランド事業	増額
④102条園(宗教法人立・個人立)の幼稚園子育てランド事業、わんぱく保育推進事業について、県単補助金の継続を要望します。	継続	地域子育て推進事業	県単補助部分の増額
⑤園舎の耐震診断、耐震補強等にかかる費用の助成を要望します。	継続	幼稚園耐震化事業費	継続
【要望4】教員の資質向上を図るための栃幼連の研修事業への助成と、子ども・子育て支援新制度対応の研修事業への助成の一本化と総額維持	継続	栃幼連補助金 3,000千円 幼稚園特別研修費補助金 3,000千円	栃幼連補助金 6,000千円

06

●平成28年度予算要望書について

12月9日に自民党政策懇談会に、12月11日に福田知事、岩崎議長、神谷政調会長に、上記のとおり要望書を提出させていただきました。

昨年同様、運営費補助金について特に県単補助部分の増額要望を強調し、あわせてその対象を認定こども園等の1号、2号園児に拡大するよう要望した。また現状の制度設計の不備を補うために、特別支援教育費補助金についても県単補助で2号園児もその対象とするよう要望した。

平成28年度、6割以上が施設型給付の園となり、栃幼連・地区連合会がそれぞれの役割を担って振興活動を行っていくことがますます重要になる。がんばりましょう。

振興委員長 馬場章信



幼児教育センターだより



スキルアップセミナー

《明日の保育が変わる記録の在り方》

十月十六日に、スキルアップセミナーを開催しました。



午前中は、千葉大学教育学部の砂上史子准教授から、「専門性を高めるための記録の在り方」をテー

マに講話がありました。

初めに、有効な記録をとるには、十分に幼児理解をすることが大切だというお話をいただきました。また、幼児の行動だけではなく、周りの環境や友達との関係性などを記録し、自分の指導を振り返ることが大切だということも示唆していただきました。実際の事例を交えながらの講話だったので、研修者からは「具体的で分かりやすかった」という感想が寄せられました。



続いて、幼児教育センターより、幼稚園教育指導資料集第5集（文部科学省）に基づき、実際の記録の在り方について解説しました。様々な記録の方法、様式、生かし方の講話

を行った後、幼児教育のビデオを視聴して、実際に記録をしてみました。さらに、その記録を基に、協議をして「記録のポイント」を導き出しました。



研修者からは、「記録をすることで、自分の保育を客観的に見つめられることが分かった」「自分のためではなく、子どものために記録を積み重ねていきたい」「記録の様式を必要に応じて作り替えてみようと思う」「記録があれば、保護者への説明責任が果たせるといった」など、記録の重要性を改めて感じ、明日から記録を有効に活用してみようという前向きな感想が多く寄せられました。

特別支援教育研修

「一人一人と集団を育てる」という視点で、七月三日、十一月六日の二日間の日程で行いました。



第一日には、宇都宮大学の司城紀代美先生より、「特別な支援が必要な幼児と他児との関わりあい」の講話がありました。様々なエピソードを交えながら、子どもを主体として受け止めること、子どもの視点に気付くこと等、

保育の基本について分かりやすくお話いただきました。続いて、幼児教育センターより、幼稚園教育要領等を踏まえ、幼稚園・保育所・こども園における特別支援教育について確認しました。午後には、「幼児期の私たち親子の歩み」を題に、保護者より体験談があり、これらの内容をもとに、各園で実践研究をしていただきました。

第二日には、各園での実践内容によりグループニングし、実践の報告と協議を行いました。その後、総合教育



センターの林信夫教育研修専門員から「子どもの行動理解と対応」について講話と演習がありました。



「昨日まで見えていなかった子どもの姿や声を明日から見ていこうと強く思いました。」「視点を変え、自分の考えを広げるだけで、こんなにも成果が出るのかと驚きました。」「全ての幼児が社会で受け入れられ、集団の中で育ち合うことに大きな意味を感じました」など、新たな視点を育て、明日からの保育実践に大きな手応えを感じたようでした。

これからの研修

●スキルアップセミナー（Ⅱ）

二月四日（木）

《発達と学びをつなぐ要録の作成と活用》講話「要録の意義と役割」

明治学院大学

特命教授 赤石 元子 先生

講話・演習

「発達と学びをつなぐ要録の作成」

★幼児教育センター研修案内より、お申し込みください！

総合教育センターからのお知らせ

●平成二十七年

栃木県教育研究発表大会

平成二十八年一月三十日（土）

十三時～十五時三十分

《幼・保・小連携部会》

テーマ「幼児期から児童期への教育く幼児期から大切にしたい学びに向かう集団づくり」

発表1 幼児期前期の集団づくり

発表2 幼児期後期の集団づくり

発表3 小学校1年生の集団づくり

★栃木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！

お詫ひ

前号（第一二二号）の記事に誤りがありましたので、訂正いたします。（園内研修の実施例）誤 さくら認定こども園さくらが丘幼稚園 正 認定こども園さくらが丘

大変申し訳ありませんでした。





こども政策課だより

一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月八日まで、一月の始業日現在における園児数等を御報告いただきます。詳細については、別途文書でお知らせいたしますので、期限内の提出をお願いいたします。

運営費補助金及び教材費等補助金に係る変更交付申請書の提出について

本年度に入園した満三歳児分等の一般補助や特別支援教育と地域子育て推進事業の特別補助に係る変更交付申請書（新制度移行園は交付申請書）については、運営費補助金、教材費等補助金ともに一月下旬に御提出いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせいたしますので、期限内の提出をお願いいたします。

子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。本県の私立幼稚園の耐震化率は、平成二十六年四月一日現在で七十一・一％ですが、全国平均八十一・〇％と比べ、依然低い数値となっています。

県ではこれまで、**国庫補助制度や安心こども基金**による補助事業を御案内しており、多数の幼稚園に御活用いただいているところです。

平成二十八年年度においては、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

平成二十八年

一月～三月までの事業計画

- 1月6日 ※10年経験者研修
- 1月22日 設置者・園長研修会
- 2月4日 ※スキルアップセミナーⅡ
- 2月18日 設置者・園長研修会
- ※は幼児教育センター事業

平成二十八年度 主な事業計画

- 5月19日 栃幼連 通常総会
- 7月5日 栃幼PTA連 総会
- 7月24日 就職説明会
- 7月28・29日 第63回 栃木県幼稚園教育研究大会
- 8月23・24日 第31回 全日私幼関東地区教研大会（埼玉）
- 10月21日 栃幼PTA連 幼稚園教育振興の集い

慶事

- 宇都宮地区 九月二十八日 学校法人作新学院 創立一三〇周年記念式典
- 芳賀地区 十月三十一日 学校法人莊厳寺学園 真岡ひかり幼稚園 創立五〇周年落成式典
- 塩谷地区 十月三十一日 学校法人すみれ幼稚園 認定こども園すみれ幼稚園 創立四〇周年記念式典

お知らせ

平成二十七年十一月より栃幼連事務局が左記の通り移転しました。
新住所…宇都宮市昭和一一三一一〇
栃木県庁舎西別館 二階

編集後記

「ビフォー・アフター」という人気番組は、ご存じの方ばかりだと思いますが、以前、この番組をご覧になった方が、ある小冊子の中でこう書いておられました。

「徹底的な大改造とはいえず、土台や柱をあえて残す。今の生活を『否定し、リセットする』のではなく、『よりよく、改善（リフォーム）する』というところが視聴者の共感を呼ぶのだから」と。

なるほど、うなずけます。勿論、建て替えも良いですが、この番組に登場するご家族は、経済的理由以上に、これまでの家族の時間や歴史や思い出などを最優先されたのかもしれない。

この記事を書いているまさに今、本園の子ども達は、裏庭ではバツヤやトンボを追いかけ、表庭では大勢の子ども達が集まって長縄をキャッキヤと楽しんでおります。イチヨウの葉は、やや黄色く色づき、保護者の方々は、保護者会活動に精をだし、そして挨拶を交わしておられます。そして、そんな日常が本園の時間と歴史と思い出になって行くのだでしょう。

今、幼児教育界は過渡期にあるのだらうと思います。「新制度に既に移行した園」や「移行しようとしている園」、または「その予定はない園」も、きつとあるのだしょう。しかし、いずれにしても、その園が今まで築きあげてきた時間や歴史、思い出を大切にしながら、幼児教育が「よりよく改善」されていく事を願いたい。

（伊沢 信恭）